

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.192 2025.3.1

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室

E-mail: jsei@jsei.jp <http://jsei.jp/home/>

第 41 回年会 Next GIGA と教育現場の変革

2025 年 8 月 30 日・31 日 大阪教育大学柏原キャンパス

※諸事情により、会場校が京都ノートルダム女子大学から大阪教育大学へ変更となりました。会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますことをお詫び申し上げます。宿泊先や移動の際には、お間違えのないよう十分ご注意ください。

GIGA スクール構想の実現により、全国の学校で 1 人 1 台端末環境が整備され、教育のデジタル化が急速に進展しました。しかし、その活用の実態を見つめると、学びの個別最適化や協働的な学びの推進、教員の指導方法の変革、教育データの活用など、さまざまな課題が浮かび上がっています。ICT 環境を十分に活かし、教育の質を向上させるためには、技術の発展とともに指導方法や学習環境の変革が必要不可欠です。

こうした現状を踏まえ、今年会では「**Next GIGA と教育現場の変革**」をテーマに掲げ、GIGA スクール構想の次のステップを探求します。ICT の整備を前提とした新たな学びのデザインを模索し、教育 DX の推進、データ活用による指導改善、AI の教育応用、遠隔・ハイブリッド学習の可能性など、教育のデジタル変革を加速させる方策を議論する場としたいと考えております。

つきましては、今年会における研究発表を広く募集いたします。GIGA スクール構想の進展とともに生まれた新たな実践事例や、教育とテクノロジーが融合する中での課題や展望について、多くの視点からのご発表をお待ちしております。教育現場の実践知や研究成果を共有し、今後の教育改革の方向性を共に考える機会となれば幸いです。

今年会では、教育現場と研究の架け橋となる場を提供し、理論と実践の両面から教育の未来を見据え、より良い学びのあり方を共に考えてまいりたいと存じます。

多くの皆様のご参加とご発表をお待ちしております。

第 41 回年会実行委員長 若杉 祥太（大阪教育大学）

開催概要

- ・開催日：2025年8月30日（土）・31日（日）
- ・会場：大阪教育大学（柏原キャンパス）
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1
<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>
- ・事務局：日本教育情報学会第41回年会実行委員会
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1
大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室
- ・主催：日本教育情報学会
- ・後援：各教育委員会申請予定
- ・年会ウェブページ：<http://jsei-nenkai.jp/>

開催内容・時程

1日目	8月30日（土）	2日目	8月31日（日）
9:00～	受付開始	9:00～	受付開始
10:00～12:00	課題研究発表	9:30～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・休憩
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～16:00	一般研究発表 一般研究発表(オンライン)
13:45～14:15	研究会活動報告		
14:30～15:30	基調講演		
15:45～17:45	シンポジウム		
18:00～	懇親会		

※上記は現時点の予定です。変更が生じる場合がありますので、次号ニューズレターおよび年会ウェブページでご確認ください。

開催方式

- ・対面での発表方式を予定しています。ただし、一部についてオンライン方式で実施することを検討中です。
- ・懇親会の詳細については、次号のニューズレター刊行にてお知らせします。

【1】 基調講演（8月30日（土）14:30～15:30）

【演題】 Next GIGA 時代の教育デザイン

～次世代の ICT 活用教育へ向けた大阪教育大学の取り組み～

講演： 鈴木 剛 （大阪教育大学 理事・副学長）

司会： 若杉 祥太 （大阪教育大学）

【趣旨】

大阪教育大学は令和4年に教員養成フラッグシップ大学に認定され、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくけん引役としての役割を果たすべく、さまざまな取り組みを行なっています。その背景として、昨今は GIGA スクール構想とともに ICT を活用した教育が学校現場で必須になってきており、生成 AI をはじめとした新しいテクノロジーが教育に取り入れられ、産業界との連携も活発になっています。本講演では、本学がフラッグシップ大学として取り組んでいるイノベーティブな産官学連携事例を紹介しながら、次世代の ICT 活用教育がどうあるべきかを模索します。

【2】 シンポジウム（8月30日（土）15:45～17:45）

【テーマ】 未定

パネリスト： 未定

コーディネーター： 未定

【3】課題研究（8月30日（土）・31日（日）午前中）

各研究会が担当する課題研究の概要を掲載します。なお、課題研究の発表申込については【5】を参照してください。

■教育資料研究会

テーマ：NextGIGAに対応した実践的な教育資料の開発と活用

コーディネーター：成瀬喜則（富山大学）、齋藤陽子（岐阜女子大学）

趣旨

NEXT GIGA時代に適応した教育資料の活用方法については、多角的な観点から議論する必要があります。特に、デジタル教材のあり方、主体的な学びを支援する学習環境の設計、学びを深めるための協働的な教育資料の活用に関しては、多様な学習を支援する上で重要な研究テーマになるため、本研究会ではさらに議論を深めたい。

ICT 端末や学習支援環境に関する話題にとどまらず、学びの質を高め、教育の質を向上させる教育資料全般の研究と開発をテーマとして、具体的な教育実践や学習評価に関する多様な研究を広く募集する。

■特別支援教育 AT 研究会

テーマ：NextGIGAにおける特別支援教育の在り方

コーディネーター：小川修史（兵庫教育大学）、新谷洋介（金沢星稜大学）

趣旨

児童生徒一人ひとりの特性に応じた教育を展開するという特別支援教育の方向性についてはNEXT GIGAのフェーズに移っても変わりはないが、こうした教育を実現するための選択肢は今後ますます多様化かつ複雑化することが予想される。そのため、障害のある児童生徒を対象とした教育実践や研究センターの観点に加え、校務支援や学校外連携を含めたシステム構築の視点は欠かせない。そこで、本課題研究ではNEXT GIGAにおける教育実践や教材教具の開発、校務支援や学校外連携といったシステム構築など特別支援教育に関する幅広い研究テーマを募集し、多様な視点からNEXT GIGAにおける特別支援教育の在り方について考えたい。

■プログラミング教育研究会

テーマ： NextGIGA におけるプログラミング教育の在り方

コーディネーター： 小熊良一（群馬大学）、山本 利一（埼玉大学）

趣旨

2020 年からの GIGA スクール構想により、学校教育における ICT 活用が重要になってきている。NEXT GIGA では、端末の更新とともに ICT を用いた探究型の教育を充実させていくことがポイントとなっている。プログラミング教育研究会では、今まで各種発達段階におけるプログラミング教育の実践事例を収集すると共に、プログラミング教育の効果を科学的に立証する研究提案を進めてきた。本会ではプログラミング教育の基礎研究や教育現場での実践研究を広く募集し、NEXT GIGA におけるプログラミング教育の在り方について考えていきたい。

■教育技術研究会

テーマ： Next GIGA における教育技術の活用

コーディネーター： 佐藤典子（甲子園大学）、治京玉記（大阪人間科学大学）

趣旨

2019 年に「GIGA スクール実現推進本部」が設置され、「GIGA スクール構想」実現に向けてさまざまな取り組みが行われてきた。グローバル化が進む現代社会において、1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境が実現されつつある。しかし、課題がある事も指摘されている事から、課題の解消を図るためにはどのような事が必要か、教育技術に注目し討議していきたい。さらには Next GIGA に向けて教育現場はどのように変革していくべきなのか考える際には、学校における授業技術・教材開発の工夫が必要と言える。教育方法学・教育心理学など関連の学問からの示唆も踏まえ、学際的な教育研究により得られた知見を基盤に、実践と理論の融合を目指す。Next GIGA に向けて、学校での学びがどのような考え方のもと、どのようなものになるべきか、教育技術について議論を深めたい。

■グローバル教育研究会

テーマ： NEXT GIGA における教育・研究のグローバル化の新たな可能性
—近未来社会を見据えたグローバル人材育成と生成 AI の活用の可能性—
コーディネーター：清水義彦（富山県立大学）、陳那森（関西国際大学）

趣旨

グローバル教育研究会（旧：国際交流研究会）は、

1. グローバル人材育成および教育手法の研究、
2. 日本国内における留学生教育や海外からの人材育成、
3. 日本教育情報学会における海外との学術交流やその推進に伴う諸課題の解決策の

検討

を進めている。国際共同プロジェクトを視野に入れ、国内外の教育機関、研究機関、企業との連携を重視するとともに、各分野の専門家が協働して課題に取り組むためのプラットフォーム構築を目指している。今回は、NEXT GIGA における国内外のグローバル人材育成の研究、教育実践、連携の在り方を多角的に検討する。ひとり一人の若者に適した効果的な学びの環境を提供し、未来のグローバルリーダーや専門家に必要なスキル・知識・マインドが獲得できる環境整備、手段を模索する。例年通り、海外からの発表も可能なオンライン開催を予定しており、時空を超えた活発な議論を通して、持続可能な国際交流と教育革新の実現を目指す。

■ICT 活用研究会

テーマ： NEXT GIGA における ICT 活用の課題と取り組み
コーディネーター：河野敏行（岡山理科大学）、鍋谷正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

趣旨

ICT を最大限に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みについて議論する。そのために、以下のテーマを中心の議論・開発を行い、教育者の意識と技術を高めていく。

1. 全ての学習者に向けた教育サポートシステムおよび教材の開発
2. 1人1台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
3. ICT の活用促進のための具体的な学習環境や教材の開発
4. プログラミング思考力、創造的能力、AI リテラシーを養う教育や授業の開発
5. ライフスキル（非認知能力）を育てる PBL や STEAM 教育を活かしたカリキュラムの開発
6. 主体的に生きる学習者のためのデジタルシティズンシップ教育
7. 生涯を通して学び続けるための ICT 活用
8. 時間と空間を超えた遠隔講義システムを利用した教育の開発および活用

■IR 活用研究会

テーマ： IR による教育情報活用

コーディネーター：白鳥成彦（東京都市大学）、今井匠太郎（東京科学大学）

趣旨

デジタル化が進む中、教育データの活用は大学の戦略的な意思決定や教育改善において重要性を増しています。本研究会では、教育における情報の利活用に着目し、IR（Institutional Research）の視点からその可能性を探ります。大学が蓄積する多様なデータを統合・分析し、学習支援、カリキュラム改善、経営戦略の立案にどのように活かせるかを議論します。データ統合基盤の構築や Learning Analytics の活用事例を交えながら、今後の大学 IR の在り方について広く考察し、新たな展望を探る場とします。

■「AI と教育」研究会

テーマ： NextGIGA と AI の普及によって教育はどう変わるのか

コーディネーター：加納寛子（山形大学）、福田 美誉（関西国際大学）

趣旨

教育・研究における AI の適切な使用方法についての研究は、AI 技術の急速な発展と教育界でのその応用の拡大に伴い、重要性を増しています。本課題研究では、AI を教育現場で効果的に利用するための指導方法に焦点を当てます。特に、倫理的検証と教育学的設計プロセスにおける人間中心のアプローチの必要性を探求し、発達段階に応じた教育的アプローチを検討します。また、学生の批判的思考能力の育成、AI 技術の理解と応用能力の向上、そして AI に関するリテラシー教育の推進などについても検討します。研究会としては、教育者・学習者を含めたすべての人々が生成 AI を学習過程に適切に統合し、学生の学習成果を最大化するための実践的な日本型生成 AI ガイドラインの構築を含め、「AI と教育」の在り方について提言していくことを目指します。

【5】研究発表申込募集（課題研究・一般研究）

(1) 研究発表申込資格

- ・第1発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局(jsei@jsei.jp)に申込み、入会登録手続きを行ってください。
- ・会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある4ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。なお、研究発表の申込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

(2) 発表内容について

- ・「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」には「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の両方を含みます。
- ・一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください（第二希望まで選択）。ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。
 - ・情報教育 ・教育方法 ・学習評価 ・教育実践
 - ・教科教育 ・教材開発 ・その他
 - ・オンライン発表（2日目午後）※オンライン発表以外は対面の予定
- ・キーワードは下記より2～3語を選択してください。キーワードは5語以内とし、下記より2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。

IR、アクティブ・ラーニング、ESD、eラーニング、インターネット、AI、遠隔学習、学習管理、学習コンテンツ、学習支援、学習メディア、可視化、学校経営、カリキュラム開発、企業内教育、教育サービス、教育施策、教育情報システム、教育データ、教育評価、教育方法、教科教育、教師教育、高等教育、国際開発、社会教育、生涯学習、情報教育、情報検索、情報サービス、情報資源、情報処理教育、情報デザイン、情報文化、情報リテラシー、情報倫理、職能開発、初等教育、専門教育、地域連携、知的財産、中等教育、DX、データサイエンス、データベース、デジタルアーカイブ、デジタルコンテンツ、特別支援教育、図書館情報学、ネットワーク、ビッグデータ、ヒューマンインターフェース、プライバシー保護、プログラミング、メタデータ、メディア活用、メディアリテラシー、幼児教育

（五十音順）

(3) 発表申込方法に関するお願い

1. 発表申込方法

- ・第41回年会ウェブサイト（<http://jsei-nenkai.jp/>）の各種申込みの「発表申込フォーム」から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ウェブサイト以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込後の申込内容変更については、年会ウェブサイトのお問い合わせからご連絡をお願いします。

2. 発表申込期間

2025年3月1日（土）～4月21日（月）

3. 申込完了メール
 - ・ウェブ上の「発表申込フォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のメールアドレスへ「発表申込み完了メール」が送信されます。
 - ・申込完了後は「発表申込み完了メール」が届いていることをご確認ください。
4. 発表採否通知
 - ・5月中旬（予定）に発表の採否をメールで連絡します。
5. 原稿作成
 - ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（Word形式ファイル）をお送りします。
 - ・論文の原稿枚数は、課題研究は4枚、一般研究は2枚とします。
6. 原稿提出期間
2025年6月1日（日）～7月4日（金）
7. 課題研究に関する注意事項
 - ・申込み時に、各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
 - ・課題研究発表は、各研究会で調整し、テーマごとに担当コーディネーターが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
 - ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
 - ・第1発表者としての課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された場合は、この限りではありません。
8. 一般研究に関する注意事項
 - ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
 - ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
 - ・一般発表は学会員のみ発表可能です。
9. 発表申込フォームの書き方
 - ・共同研究者は何人でもかまいません。
 - ・概要はなるべく具体的に書いてください。
 - ・キーワードは5語以内とします。上記(2)のキーワードから2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。
 - ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。
10. 原稿提出フォームの書き方
 - ・原稿は、執筆要綱に従って作成してください。
 - ・PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。
11. 参加フォーム
 - ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。
12. 発表会場
 - ・会場で使用できる機器はプロジェクターのみです。
 - ・パソコンは各自で持参してください。

【6】参加方法

(1) 参加申込期間・方法

- ・申込期間：6月1日(日)～8月2日(土)
- ・申込方法：次号ニューズレターで案内します

(2) 参加費用

- ・参加費、年会論文集代は下記のとおりです。

会員事前申込

参加費 3,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

会員（当日）・非会員

参加費 4,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

学生会員・後援・共催関係教職員（学生含む）

参加費 無料（※） 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

（※学生会員・後援・共催関係教職員であっても発表者は参加費が必要です）

- ・支払方法につきましては、次号ニューズレターで案内します。

(3) 論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

- ・年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、論文集代をお振り込みのうえ、年会ウェブサイト内の「参加申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。
- ・年会終了後に論文集を送付します。
- ・論文集：4,500 円（郵送費等を含む）

(4) 後援・共催関係の皆様

- ・後援・共催をいただいた教育委員会所属の教職員の参加費は無料とします。ただし、論文集を必要とされる方は、論文集費が必要です。
- ・新規の方の参加を歓迎します。

【7】 年会開催までのスケジュール

- ・発表申込期間 2025年3月1日(土)～4月21日(月)
- ・発表決定通知 2025年5月中旬頃
- ・原稿提出期間 2025年6月1日(日)～7月4日(金)
- ・参加申込期間 2025年6月1日(日)～8月2日(土)
- ・論文集郵送申込期間 2025年6月1日(日)～8月2日(土)

【8】 広告掲載（協賛）募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告掲載（協賛）をいただいた企業の方には、当日会場内ブースにて、製品紹介および展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしく願いいたします。

広告掲載申込方法などは年会ウェブページにて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ウェブページのお問い合わせからお願いいたします。

協賛（料金 ¥40,000）		
内容	論文集掲載広告（広告1）	
・展示（1ブース） ・広告1（論文集掲載） ・広告2（フライヤー配布）	色	1色（モノクロ）
	貢（寸法）	1/1貢（天地240mm×左右160mm）
	形式	Word, JPEG

<お知らせ>

近年、学会運営本部事務局におけるFAXの利用がほとんどない状況が続いていることから、情報伝達の効率化及び費用削減を目的として、FAXの運用を廃止することといたしました。

今後のご連絡や書類の送付につきましては、メールまたは郵送にて行っていただきますようお願いいたします。

会員の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室

E-mail: jsei@jsei.jp

HP: <http://jsei.jp/home/>